

厚生科学審議会 疾病対策部会  
造血幹細胞移植委員会（第60回）

資料 1

令和 6 (2024)年 2月29日

# 自己スワブ検査の導入に係る状況

厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課

移植医療対策推進室

# 若年層ドナー登録者の確保

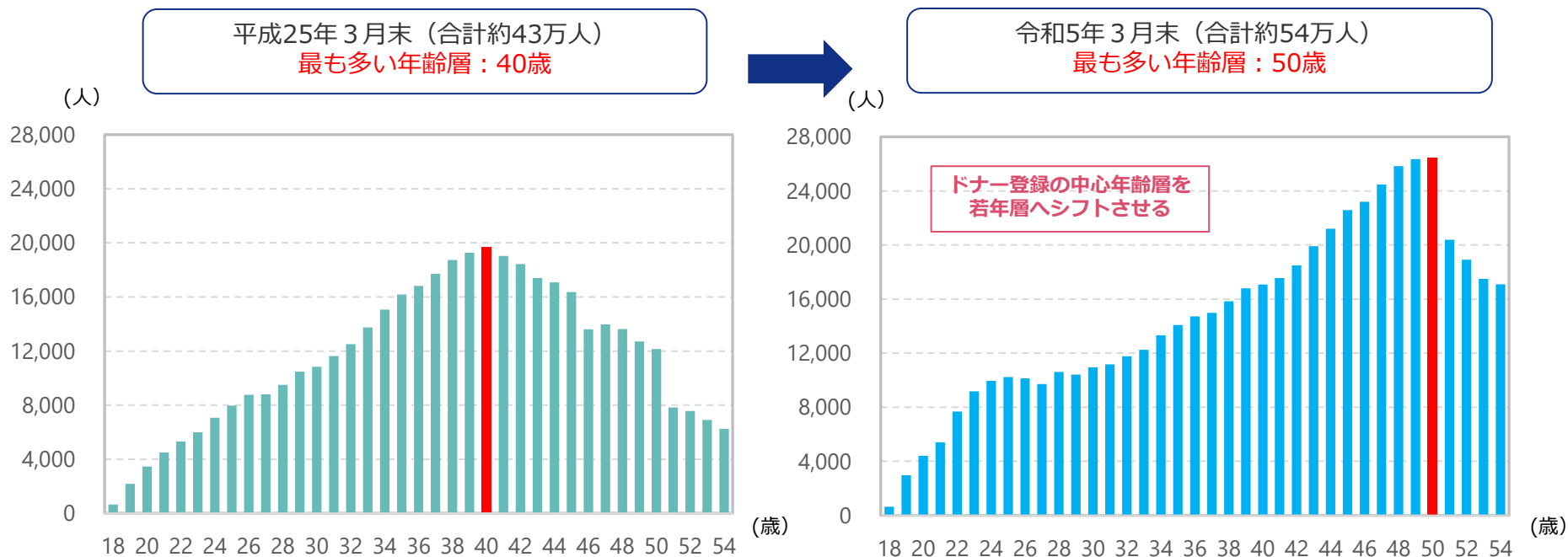
## 課題

- 骨髄バンクドナー登録者のうち、最も多い年齢層は令和5年3月末時点で50歳（10年前は40歳）と高齡化が顕著になってきている。
- 高齡ドナーは健康理由等によりコーディネート中止となる割合が高い傾向にある。骨髄等の提供ができる年齢は54歳以下のため、今後、ドナー登録者数の減少、ひいてはコーディネートへの影響が懸念されている。

## 対策

各国では既に導入されている検査方法である自己スワブ検査を導入することで献血ルームに赴くことなくドナー登録ができるようにすることにより、若年層や今まで登録機会がなかった方に骨髄バンクドナーとして登録機会を増やす。

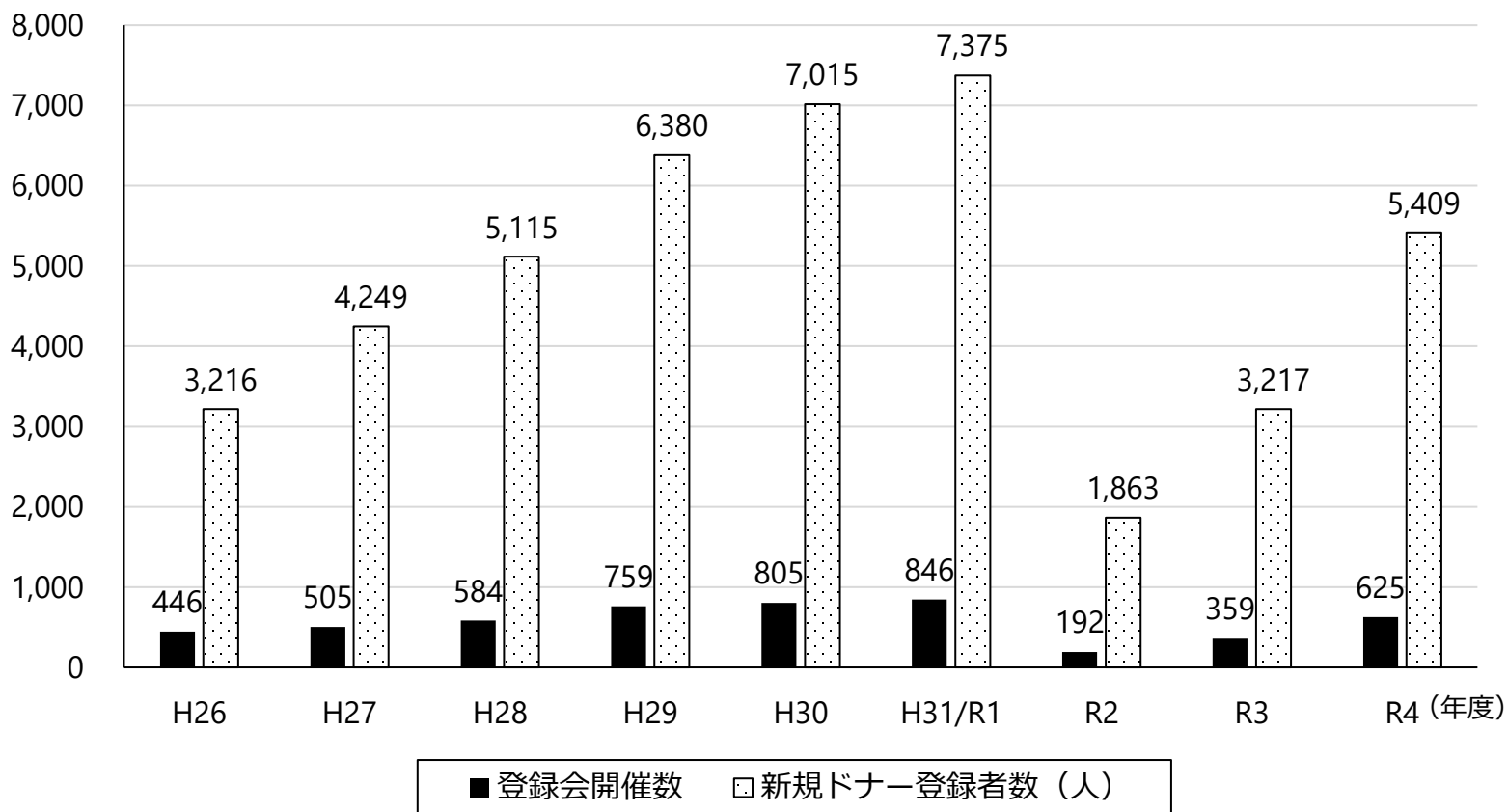
## 年齢別ドナー登録者数（直近、10年間の比較）



# 学域におけるドナー登録会実施状況について

骨髄バンクのドナー登録について、学域（大学・専門学校・高校等）における登録会開催数と登録者数は、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少していたが、令和4年度は回復傾向にある。

## 学域におけるドナー登録会開催数及び登録者数の推移



令和5年度補正予算 0.27 億円

## 1 事業の目的

- 骨髄バンクドナーとして登録する際にヒト白血球抗原（HLA）型検査用の採血が必要となることから、現在のドナー登録会場は採血が行える献血会場や保健所といった会場に限られている。
- 新たな登録方法として、口腔粘膜等のぬぐい液（スワブ）による検体採取を採用することで、採取時に特別な手技（医師の同行等）を要さず、ドナー登録希望者にとっても時間や場所の制約が少ない形での登録が可能となり、さらに大学や専門学校などの学域登録会を開催することで若年層ドナーの確保が期待できる。
- 「口腔粘膜等のぬぐい液（スワブ法）」を使用したドナー登録方法の導入に向けて、課題や問題点の洗い出すための実証実験事業を行う。

## 2 事業の概要、実施主体等

（公財）日本骨髄バンク 補助率 10/10

